

令和7年  
2025年

2月6日  
木曜日

第11648号

# 食肉速報

## THE DAILY MEAT NEWS

昭和51年5月19日  
第三種郵便物認可

購読料 (前納)  
年間 82,080円  
(税込み)

6カ月 42,120円  
(税込み)

本紙は関連企業・団体との  
タイアップ企画記事を含みます

【発行所】株式会社食肉通信社  
<https://www.shokuniku.co.jp/>

東京支社  
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町18-1  
TEL03-3663-2011 FAX03-3663-2015

大阪本社  
〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48  
TEL06-6538-5505 FAX06-6538-5510

九州支局  
〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12  
TEL092-271-7816 FAX092-291-2995



自民党で農産物輸出促進対策委員会が開催……P8

## 注目のヘッドライン

### 【2月の相場見通し】②輸入牛肉・豚枝肉

…詳細はP2

### 【東京支社移転のお知らせ】

当社は2月10日から東京事務所および食肉速報編集部を移転します。移転作業に伴い12日付けは休刊とさせていただきます。(10日午前中は電話・FAXがつかない時間帯があります)  
新所在地:〒101-0021 東京都千代田区外神田2丁目14-10  
新電話番号:03-6206-0929、新FAX番号:03-6206-0928  
(株)食肉通信社 日刊食肉速報編集部

- ▶【2月の相場見通し】②輸入牛肉・豚枝肉……………P2
- ▶【2月の相場見通し】③国産豚部分肉・輸入豚肉・内臓肉……………P2～3
- ▶[畜産物卸売価格・1月]和牛去勢A4価格は前年同期比81円安……………P3
- ▶[豚肉調製品輸入通関・12月]シーズンドなど合計8644tで減少……………P4
- ▶[鶏肉調製品輸入12月]計4万5580tで2.9%増……………P5
- ▶[ソーセージ輸入12月]計2343tで2.3%増……P5
- ▶フレッシュネスバーガー、麻辣で楽しめる「アボカドフェア」を開催……………P6
- ▶日本植物蛋白食品協会が、2024年度技術セミナーを開催……………P7
- ▶プリマハムが「春のおいしさ、ふれあい。キャンペーン」を実施……………P7
- ▶農産物輸出促進対策委員会、稼げる輸出に向けた第7次提言(素案)示すー自民党……………P8
- ▶【関東の輸入豚肉現物相場】Cは全体的に動く、Fは鈍い……………P8
- ▶【関東の国産豚肉現物相場】C、Fともにスソ物に引き合い……………P8
- ▶[資料]畜産物卸売価格の推移……………P9
- ▶[東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数]5日……P10
- ▶[各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場]5日…P11

国内で唯一、最大級の食肉総合見本市

第49回

## 2025食肉産業展

2025 Japan Meat Industry Fair 49th.

食肉産業展HP

ご来場をお待ちしております!

開催テーマ

### 肉のサステナビリティとイノベーション

会期 ● 2025年3月11日(火)⇒14日(金)

会場 ● 東京ビッグサイト 東7ホール

主催 ● 食肉産業展実行委員会  
後援 ● 農林水産省、厚生労働省ほか

同時開催

アジア最大級の食品・飲料総合展示会

The 50th International Food and Beverage Exhibition

## FOODEX JAPAN 2025

食肉産業展HPはコチラ ▶ <https://www.shokuniku-sangyoten.jp> 食肉産業展東京事務局 ☎03-3663-2011

## 【2月の相場見通し】②輸入牛肉・豚枝肉

【輸入牛肉】通関遅延の影響続く、値頃感出せず動き鈍化

輸入牛肉は昨年末から豪州産、米国産共に通関遅れの影響を受けている。2~3週間遅れで通関が切れた商品が入荷しても、決まった取引先に送るため、在庫の逼迫は続いている。2月は中国の旧正月などの影響もあり通関遅れは当面続くもようだ。しかしながら、季節的な要因もあって引き合いは弱く、大きな混乱状況には至っていない。豪州産チルドではモモ系、スソ物、米国産ではショートプレートが逼迫しているものの、フローズンなどで代用提案している。

フローズンは、豪州産カウミートの引き合いは昨年末までで落ち着いたが、ひき材需要が高まっている。チルドの代替品としてトップサイドの需要がある。本来であれば季節商材として動いているポイント、ナールは値頃感を打ち出せず、荷動きは弱い。在庫環境の差などから、中心価格は関東の方が高く50~100円程度上で取引されているようだ。現地相場は昨年までと大きな変化はないが、円安の動きに左右されることと、豪州産は米国の買い気によって変動しそうだ。厳しい寒さから鍋物需要も期待されるが、鶏・豚肉に需要がシフトしているとの声が多い。

【豚枝肉】500円台半ばで推移、不透明感強く東西に差

【東京】昨年は猛暑の影響、さらに豚熱やPRRSなどの発生も続き、出荷頭数はそれほど増えず、年末まで比較的高値の相場展開が続いた。年末年始は休みが長く、年明けに補充手当てが進んだことや連休へ向けた引き合いもあり、年初から例年以上に高

値をつけた。

ただ、その後は不需要期に入り、相場は急落。500円台前半から中盤の軟調な展開となった。

農水省の肉豚生産出荷予測(1月20日発表)によると、2月は134万4千頭で前年同月比2%減、平年比では1%増と予測。寒波の影響なども懸念されるが、出荷頭数はそれなりにあるとみられる。

年末年始の反動から、2月は節約志向がさらに強まることも予想され、弱もちあいの展開か。

【大阪】去年1年、異常ともいえる豚枝肉の高値相場に振り回された年となったが、近年の高値傾向を鑑みると、今年もこの先はほぼ間違いなく高値になっていくといえる。輸入豚肉の仕入れ難や、国内疾病がまだ続いており、加えて景気の不透明感に伴う牛肉から豚肉へのシフトについても、今年も引き続きみられることだろう。

とはいえ、モノが売れない閑散期である2月についてはそこまで価格も伸びず、2月はおそらく450~500円程度にとどまりそうだ。

【福岡】消費の端境期や量販店の決算シーズンを迎えることで全般に市中の荷動きは停滞し、枝肉相場の月平均は弱含むか。国内出荷頭数予測(農水省)は1~3月累計で427万3千頭と前年四半期比で103%の見込み。

残暑の影響に伴う生育不良や降雪時の輸送混乱などで実際の供給頭数はやや不透明だが、先行指標の関東市況に追随し、月平均はで570~590円を維持するか。

## 【2月の相場見通し】③国産豚部分肉・輸入豚肉・内臓肉

【国産豚部分肉】スソ物中心の荷動き、凍結在庫は引き合い入るか

【関東】2月は大きなイベントなどもなく、春を前に需要が落ち込む時期。受験シーズンにロースやヒレの“カツ”需要なども一部ではあるが、基本的には不透明期となる。

寒さは厳しいものの、野菜の高騰などもあり、鍋需

要もそれほど伸びず、中部位の動きも期待しにくい。需要の中心は価格訴求力のあるスソ物であり、ウデやモモは堅調な荷動きとなりそうだ。

冷凍物については、引き続きスソ物を中心に中部位にも引き合いがみられるか。昨年来の高豚価で凍結回しにすることが難しく、例年に比べて在庫水準が低かった。

全体的に需給は逼迫していたが、ここへきて豚価が再び上昇しており、凍結玉などは依然として仕込みにくい。2月もそうした状況が続くか。

【関西】年末年始の動きは全体的に堅調であった。特に日並びの関係で年明けの6~7日の玉をそろえるために、12月の最終週は駆け込みでの受注が各社とも相次いだ。年明けもそうした流れを引き継ぐ形で量販店からの問い合わせも活発化しているという声も目立つ。

輸入物の通関遅れもあり、小売店がフェースを埋めるために国産を増やすといった動きもあるようだ。部位別では、年始は受験シーズンのカツレツ用にヒレの引き合いも強まった。バラ、ロースも価格は弱含みだが、引き合いは堅調。2月は需要の端境期だが、群馬県で発生した豚熱の影響なども懸念されることから、早めの確保に動く企業が増えればジリ上げの展開も。

【輸入豚肉】Cは需給若干締まる、フローズンは動き鈍い

トランプ米大統領の就任により、為替の動向は今後さらに注視される。円安傾向がさらに進めば、買い付けを抑制するケースがさらに増えていく。

チルドポークについては、1月も米国などからの入船スケジュールの乱れによる影響があり、遅れていた通関玉がまとめて入ってくるケースも散見された。た

だ、需給は比較的締まっており、余剰感はみられなかった。ロイン系やスソ物など、2月も全体的に堅調な荷動きが続くか。

フローズンポークは、ベリーなどに引き合いがみられるものの、年明け以降、全体的な荷動きは鈍く、在庫量も高水準となっている。鍋物需要などへ向け、価格優位性のある解凍スライス品への引き合いもみられるが、全体的には静かな荷動きか。

【輸入牛内臓】前半の3連休までは補充買いの需要もあり、荷動きも活発であったが、中旬以降は例年どおり落ち着いていた。ただ、米国のトランプ大統領が打ち出す政策面が読みづらいことや、為替レートがさらに円安に振れることへの懸念もあり、大手各社は「先行き不透明で、できるだけ在庫を持ちたくない」というスタンスから一転し、在庫を積極的に積み増す動きが目立った。

2月は需要の端境期ではあるが、3月の決算期には一部アイテム整理の動きはあっても、全体相場は来月も高値を維持していくのではないかと。特に米国産のアウト・ハンテンは現地の引き合いも強いことから、大きく下がることはなさそう。

一方、白物は、寒さがピークアウトしつつあることや、葉物野菜の大幅な高騰で例年よりも外食・肉食向けの動きが鈍いという声も。天候次第では3月まで待たずに投げ物が出てくる可能性もある。

## 【畜産物卸売価格・1月】和牛去勢A4価格は前年同期比81円安

農水省食肉鶏卵課がまとめた1月の畜産物卸売価格の推移(9面参照)によると、豚の全国と畜頭数(速報値)は141万3900頭(前年同月並み)となった。豚肉「極上」「上」の価格は東京が598円(105円高)、大阪が520円(34円高)。成牛のと畜頭数は8万4020頭(2・5%減)となり、東京では和牛去勢A4価格が2234円(81円安)、交雑牛B3が1523円(8円高)となった。

【豚】全国の1日あたりの平均と畜頭数は、上旬が5万8757頭(3・0%減)、中旬が4万9163頭(10・5%減)、下旬が6万7700頭(1・0%減)。東京の価格は上旬が629円(129円高)、中旬が551円

(60円高)、下旬が606円(114円高)で、大阪は上旬が555円(47円高)、中旬が502円(18円高)、下旬が506円(27円高)となった。

【牛】全国の1日あたりの平均と畜頭数は、上旬が3463頭(30・0%増)、中旬が2979頭(17・9%減)、下旬が3994頭(5・6%減)。東京の和牛去勢A4価格は上旬が2293円(139円安)、中旬が2237円(122円安)、下旬が2204円(39円安)となり、交雑牛去勢B3価格は上旬が1560円(3円高)、中旬が1565円(36円高)、下旬が1488円(3円安)となった。

【豚肉調製品輸入通関・12月】 シーズンドなど合計 8644 t で減少

財務省が公表した12月分の貿易統計によると、豚肉調製品の輸入通関量は、カタを原料としたシーズンドポークを含む1602-42-090は、合計8644t(前年同月比19.1%減)と前年同月から減少した。前月からも64t減少した。国別にみると、米国が5793t(7.0%減)、メキシコは638t(40.7%減)、カナダは488t(42.8%減)となったほか、デンマークは237t(77.8%減)と減少した。

カタ・モモ以外を原料とした1602-49-290の合計は3429t(1.7%増)となった。国別では、米国が2332t(20.4%増)、中国が767t(20.2%減)、タイが150t(49.7%増)、デンマークが89t(63.6%減)となった。

また、表記以外のモモ肉およびこれを分割した1602-41-090は、米国529t、タイ76t、中国26tなど、6カ国から合計681t輸入された。

1602.42-090 カタを原料としたもの

単位:トン

	カナダ	アメリカ	チリ	メキシコ	オランダ	デンマーク	その他計	合計
2023年12月	853	6,229	1,032	1,076	0	1,068	429	10,688
2023年累計	14,418	74,098	8,124	10,415	3,619	14,800	8,578	134,052
前年比	137.9%	86.8%	101.9%	117.0%	42.8%	94.0%	97.5%	92.0%
2024年1月	1,074	5,197	768	593	19	805	549	9,006
2月	998	3,972	744	440	0	732	534	7,420
3月	1,440	3,206	1,224	550	24	1,125	407	7,975
4月	1,292	9,815	863	1,187	0	806	632	14,595
5月	1,637	5,571	864	859	0	928	824	10,682
6月	1,236	6,600	946	571	0	765	295	10,413
7月	1,410	6,549	672	1,231	0	662	207	11,020
8月	1,218	5,272	1,152	988	0	781	207	10,097
9月	1,143	6,001	648	660	0	735	469	9,656
10月	973	5,700	1,104	836	0	809	288	9,917
11月	1,195	4,952	864	572	0	434	691	8,708
12月	488	5,793	1,008	638	0	237	480	8,644
前年同月比	57.2%	93.0%	97.7%	59.3%	-	22.2%	111.8%	80.9%
2024年累計	14,104	68,628	10,858	9,126	-	8,819	5,586	118,134
前年同期比	97.8%	92.6%	133.7%	87.6%	-	59.6%	65.1%	88.1%

1602.49-290 カタ・モモ以外を原料としたもの、混合を含む

単位:トン

	中国	デンマーク	アメリカ	タイ	オランダ	メキシコ	その他計	合計
2023年12月	961	246	1,937	100	31	88	10	3,373
2023年累計	8,597	3,180	20,614	1,290	1,149	1,001	230	36,061
前年比	99.8%	108.4%	88.8%	67.6%	79.3%	110.4%	122.5%	92.0%
2024年1月	701	427	2,313	82	0	110	17	3,649
2月	605	157	1,628	95	0	42	14	2,541
3月	601	320	2,378	134	0	88	10	3,532
4月	938	393	1,587	99	16	132	21	3,185
5月	710	316	3,146	138	47	43	24	4,423
6月	779	657	2,417	79	0	76	5	4,012
7月	923	146	1,537	132	0	98	7	2,844
8月	522	487	1,727	94	0	66	24	2,920
9月	580	473	1,205	102	14	108	19	2,502
10月	870	136	1,733	159	14	88	29	3,027
11月	606	269	1,293	92	31	44	41	2,377
12月	767	89	2,332	150	0	66	24	3,429
前年同月比	79.8%	36.4%	120.4%	149.7%	0.0%	75.1%	234.0%	101.7%
2024年累計	8,601	3,872	23,296	1,354	122	961	235	38,442
前年同期比	100.1%	121.8%	113.0%	104.9%	10.6%	96.0%	102.4%	106.6%

## [鶏肉調製品輸入 12月] 計4万5580 tで2・9%増

12月の鶏肉調製品の輸入通関実績は、計4万5580 t (前年同月比2・9%増)と前年を上回った。前月からは612 t減少した。国別ではタイが2万7278 t

(1・2%増)と増加。中国も1万7440 t (5・6%増)と増加した。そのほか韓国が209 t (約2倍増)、ブラジルが19 t (86・4%減)となった。

鶏肉調製品輸入の推移

単位：トン、( )内は前年比%

	中国	タイ	ブラジル	韓国	米国	フィリピン	合計
2022年計	192,373 (109.3)	326,751 (109.3)	1,925 (110.6)	1,028 (93.3)	117 (55.8)	33 (71.4)	525,762 (109.4)
2023年計	173,673 (90.3)	297,810 (91.1)	558 (29.0)	1,201 (116.8)	100 (85.5)	0 (-)	477,983 (90.9)
2023年12月	16,518 (110.3)	26,952 (108.2)	139 (146.7)	102 (75.2)	14 (-)	- (-)	44,292 (109.6)
2024年1月	13,238 (110.4)	21,717 (99.7)	76 (66.7)	94 (131.7)	- (-)	- (-)	35,688 (104.1)
2月	11,064 (120.0)	22,790 (101.6)	19 (26.0)	72 (63.0)	- (-)	- (-)	34,339 (107.0)
3月	13,221 (88.9)	24,460 (96.5)	19 (100.0)	57 (118.7)	14 (-)	- (-)	38,329 (94.5)
4月	16,788 (114.1)	27,086 (109.6)	38 (100.0)	150 (385.2)	0 (-)	- (-)	44,648 (111.9)
5月	14,034 (113.5)	26,117 (115.2)	38 (99.6)	65 (206.2)	- (-)	- (-)	40,776 (115.0)
6月	15,546 (100.1)	26,467 (111.2)	19 (100.0)	23 (52.2)	14 (-)	- (-)	42,605 (107.2)
7月	19,023 (127.4)	27,823 (116.0)	94 (123.7)	33 (116.4)	- (-)	- (-)	47,452 (120.2)
8月	14,464 (99.9)	24,641 (96.7)	38 (100.0)	60 (165.2)	- (-)	- (-)	39,797 (98.6)
9月	16,795 (112.3)	22,519 (88.9)	56 (892.6)	65 (82.7)	14 (-)	- (-)	39,880 (97.7)
10月	17,078 (114.2)	29,949 (118.2)	76 (-)	135 (170.6)	- (-)	- (-)	47,902 (117.4)
11月	18,464 (117.7)	27,000 (96.5)	- (-)	119 (57.3)	14 (-)	- (-)	46,192 (104.1)
12月	17,440 (105.6)	27,278 (101.2)	19 (13.6)	209 (205.5)	- (-)	- (-)	45,580 (102.9)

## [ソーセージ輸入 12月] 計2343 tで2・3%増

12月のソーセージ輸入通関実績は計2343 t (前年同月比2・3%増)で増加となり、前月比では18 t増となった。国別では米国が677 t (4・6%増)、中国が567 t (15・7%増)、ブラジルが383 t (23・

2%増)、デンマークが166 t (90・8%増)と前年を上回ったが、タイは396 t (38・9%減)で減少となった。

ソーセージ輸入量の推移

単位：トン、カッコ内前年比%

	中国	タイ	米国	ブラジル	デンマーク	合計
2021年計	6,116 (93.7)	6,610 (102.0)	7,156 (92.1)	3,679 (73.3)	1,178 (90.3)	26,790 (90.8)
2022年計	5,610 (91.7)	7,066 (106.9)	6,321 (88.3)	6,422 (174.6)	1,347 (114.3)	28,444 (106.2)
2023年計	5,104 (91.0)	6,721 (95.1)	6,470 (102.4)	4,544 (70.8)	1,230 (91.3)	25,580 (89.9)
2023年12月	490 (82.4)	648 (113.7)	647 (146.0)	311 (46.8)	87 (87.9)	2,291 (90.7)
2024年1月	339 (93.4)	448 (89.1)	342 (65.1)	301 (81.4)	21 (16.8)	1,551 (77.4)
2月	356 (106.3)	555 (95.5)	423 (105.5)	325 (96.2)	59 (-)	1,786 (100.3)
3月	349 (100.3)	506 (79.9)	517 (142.8)	407 (132.1)	76 (140.7)	1,986 (109.7)
4月	414 (80.4)	516 (102.6)	776 (150.4)	517 (129.3)	155 (72.1)	2,539 (110.5)
5月	464 (132.2)	502 (132.8)	647 (143.8)	349 (94.3)	134 (108.1)	2,192 (125.2)
6月	401 (96.9)	490 (76.8)	632 (102.9)	516 (113.9)	72 (64.9)	2,232 (93.0)
7月	439 (108.7)	577 (91.0)	619 (106.4)	432 (84.9)	160 (118.5)	2,404 (101.2)
8月	474 (92.8)	451 (89.5)	493 (60.8)	629 (147.7)	133 (102.3)	2,351 (92.4)
9月	468 (100.9)	499 (88.0)	450 (88.8)	516 (145.4)	83 (180.4)	2,104 (101.7)
10月	400 (75.2)	634 (110.5)	490 (88.9)	692 (163.6)	37 (63.8)	2,384 (106.8)
11月	491 (130.2)	400 (71.7)	570 (113.1)	663 (235.9)	101 (69.7)	2,325 (114.8)
12月	567 (115.7)	396 (61.1)	677 (104.6)	383 (123.2)	166 (190.8)	2,343 (102.3)

## フレッシュネスバーガー、麻辣で楽しめる「アボカドフェア」を開催

コロナイドグループの(株)フレッシュネス(横浜市、斎藤健太郎社長)が展開するハンバーガーチェーン「フレッシュネスバーガー」は12日～4月8日、同店の春の定番のアボカドフェアを開催することを発表。それに先立ち、メディア向け新商品試食会を行った。



今年で11回目となる同フェアは、花椒の痺れる辛さと、唐辛子のヒリヒリした辛さを合わせ持つ、麻辣を使用した新商品「クラシックアボカドスモークチーズバーガー～シビ辛麻辣～」(税込み890円=写真前列右)、和の味わいを特長とし、某テレビ番組では満場一致で合格を獲得した「クラシックアボカドクリームチーズバーガー～わさび香るサクサク醤油～」(890円=写真前列左)そして、ジャパンフードセレクションでグランプリを受賞した王道の「クラシックアボカドチーズバーガー」(890円=写真前列中央)の3種類が登場。いずれも生のアボカド1/2個をぜいたくに使った素材や手作りにこだわる同店ならではの逸品となっている。

また、注文を受けてから店内で揚げる「北海こがね」を使用した皮付きフライドポテトに新たに「ローズマリーポテト」(390円=写真後列右)のフレーバーが登場。さらに、シリーズ累計50万杯以上を販売した、人気の期間限定クラフトレモネードシリーズから、昨年春に好評を博した「クラフトいちごレモネードソーダ(アイス)」「クラフトいちごレモネード(ホット)」(共に540円=写真後列左)が再登場した。

会の冒頭、同社マーケティング本部商品部商品開発部の逆井里奈部長から「毎年、春の定番キャンペーンとなっているアボカドフェア。男性はもちろん、特に女性のお客さまに多くの支持を得ており、今年で11年目の開催となる。当社で使用するアボカドの特長は、他店では冷凍のアボカドを使用するところがほ

とんどの中、当社はメキシコ産アボカド生産者・輸出梱包業者協会(APEAM)とコラボレーションすることで、フレッシュなメキシコ産アボカドを通年使用することを実現させた。『クラシックアボカドスモークチーズバーガー～シビ辛麻辣～』では特に、トレンドに敏感な若い女性をターゲットとし、クリーミーなアボカドと麻辣湯などの薬膳効果や発汗作用で知られる麻辣の辛さ、スモークチーズの香りを合わせた絶妙なバランスで奥行きのある味わいを演出した。『クラシックアボカドクリームチーズバーガー～わさび香るサクサク醤油～』は、居酒屋などでも人気の『アボカド刺し』から着想を得た商品。クリームチーズのkokのある酸味と、わさびを加えたフリーズドライのサクサクしょうゆの食感がアクセントになり、バンズに敷いた大葉の風味とツンと香るわさびが、和のテイストを加え、アボカドを豊かに引き立てるように仕上げた」とバーガーについて紹介し、「『ローズマリーポテト』は春らしい爽やかさを感じるローズマリーと食欲をそそるガーリックの味わいを合わせ、バーガーと交互に食べ進めていただけるようなフレーバーを意識。また、昨年好評を博しての復活となる『クラフトいちごレモネード』は国産の生のいちごを使用し、店内ではちみつといちごソースに漬け込むことで、フレッシュさを保ちながら香り高い味わいに仕上げた。ゴロッと入ったいちごを潰しながら飲んだり、飲み終えて食べていただいたり、いろんな楽しみ方をしていただきたい」と同フェアの商品開発秘話が語られた。

## 日本植物蛋白食品協会が、2024年度技術セミナーを開催

一般社団法人日本植物蛋白食品協会(岡雅彦会長)は3日、東京都千代田区の主婦会館プラザエフとオンラインで、2024年度技術セミナーを開催した。セミナーは2部構成で、前半にイノベーションマーケットインサイト日本カンントリーマネジャーの田中良介氏(上写真)が講師を務め「世界のプラントベーストレンドの現在地と展望」のテーマで講演を行った。田中講師によれば、欧米では24年現在で、フレキシタリアン(菜食を中心としつつ、肉、魚も食べる)は健康のためにダイエットを心がける中高年に多いものの、より少数のヴェジタリアン、ペスカタリアン(菜食を中心に、肉食はしないが魚介は食べる)、ヴィーガンなどはミレニウム世代、Z世代に多くみられる。若いヴィーガンやヴェジタリアンが同様の食生活を続ける可能性が高いこともあり、将来的にもプラントベースの食品は一定の需要を保つと考えられる。代替肉などで先行していた北米、とくに米国のプラントベース食品の需要はブームが一巡し、やや縮小している一方で、ヨーロッパ、中東では伝統的な料理や豆食文化と結びつくことで伸長がみられる。また、ドイツ拠点で欧州に展開する大手ディスカウントスーパー「リドル」で牛肉60%、豆タンパク40%のひき肉が商品化され、米国でも牛肉

50%、野菜50%のパテを使ったUSDA承認のビーフ50%のハンバーガーが発売されるなど、価格とおいしさ、サステナブルのバランスをとった例もみられるという。

休憩を挟み、味の素食品研究所のエグゼクティブスペシャリストで農学博士(京都大学)の川崎寛也氏(下写真)が「だしとうま味のおいしさの科学とデザイン」のテーマで講演を行った。プロの料理技術の解明、食の体験と心理的価値などを主な研究分野とし、特定非営利活動法人日本料理アカデミーの理事を務める川崎講師が脳腸相関や、うま味受容のメカニズム、フランス料理におけるフォンや中華料理の上湯など世界の伝統的な料理における、うま味成分の構成と歴史的、文化的背景や日本のかつお節、昆布を中心としたダシとの相違点などが語られた。



## プリマハムが「春のおいしさ、ふれあい。キャンペーン」を実施

プリマハムは1日~3月31日(応募締切第1回=2月28日、第2回=4月3日、当日消印有効)の間、「春のおいしさ、ふれあい。キャンペーン~東京ディズニールランド貸切プライベート・イブニング・パーティーご招待~」を実施する。毎年好評を博しており、今回で12回目の開催となる同社の貸切イベント。今回は、東京ディズニールランドへ合計5千人を招待。通常営業終了後、ディズニー・ハロウィーンの素敵な雰囲気にもまれたパークを、プリマハムの招待者だけでゆったりと楽しめる。そのほか、東京ディズニールリゾートのパークチケットやプリマハムの人気商品詰め合わせが当たるコースも用意。総計5600人においしさと楽しさを届ける。応募方法は、対象商品のバーコードを必要枚数分集め、専用応募はがきまたは郵便はがき

に張り、必要事項を記入の上、応募する。

【コース内容】東京ディズニールランド貸切プライベート・イブニング・パーティーご招待 4名様コース=合計500組2千人(バーコード13枚)▷東京ディズニールランド貸切プライベート・イブニング・パーティーご招待 2名様コース=合計1500組3千人(バーコード7枚)▷東京ディズニールリゾート・パークチケットコース(ペア)=合計150組300人(バーコード8枚)▷プリマハム商品詰め合わせ=合計300人(バーコード2枚)

【主な対象商品】香薫あらびきポークウインナー(90g×2、510g)、スマイル UP!ロースハム3連、スマイル UP!ハーフベーコン3連、十勝グルメの便りロース生ハムほか。

## 農産物輸出促進対策委員会、 稼げる輸出に向けた第7次提言(素案)示す—自民党

自民党の農産物輸出促進対策委員会が5日、党内で開催され、輸出産地関係者やGFP(農林水産物・食品輸出プロジェクト)関係者によるヒアリングのほか、稼げる輸出に向けた第7次提言(素案)が示された。

冒頭、上月良祐農林部会長は「2024年の輸出額は1・5兆円を達成。25年は2兆円が目標となるのでしっかりやっけていかなくてはいけない。インバウンドが伸びている中、それ以外に輸出ができていたのが1・5兆円あるということ。われわれの狙いである実際に

海外にもっていくことに努めていきたい。稼げる輸出に向けた第7次提言が示される中、これまでの積み上げを大切にしながらさらなる一歩を踏み出せるよう力添えいただきたい」と述べた。

稼げる輸出に向けた第7次提言(素案)では、①農林水産物・食品の輸出拡大②食品産業の海外展開③インバウンドによる食関連消費の拡大における方針についても、新たな基本計画にしっかりと盛り込み、関連施策を具体化すべきであると示している。

## 【関東の輸入豚肉現物相場】Cは全体的に動く、Fは鈍い

[フローズン]春節の時期であり、インバウンドでの外食需要などもみられるが、末端消費は振るわない。引き続きベリーなど一部アイテムには引き合いがみられるものの、全体的な荷動きは鈍く、在庫水準も比較的高い。

[チルド]入船遅れによる影響などが緩和されたことで、一時期のような逼迫感が薄れている。ただ、相場高の続く国産物からの需要シフトなどもみられ、全体的な荷動きとしてはそれほど鈍っていない。引き続きベリーなどを中心に、中部位からスソ物まで全体的に動いている。

【輸入豚肉現物相場】(関東仲間冷蔵庫渡し)

キロ/円(税抜き)

	輸入元	部位	相場	気配
フローズン	米国産	クッションミート	730中心	→
		テンダーロイン	850中心	→
	カナダ産	ショート・ボックス	780中心	→
		ウデ	750中心	→
	デンマーク産	モモ	750中心	→
		ベリー	900中心	→
		カラー	880中心	→
	フランス産	ロインMM	860中心	→
テンダーロイン		850中心	→	
チルド	米国産	シートベリー	900中心	→
		カタロース	880中心	→
	カナダ産	ロイン(FLON)	780中心	→
		CCロイン	780中心	→
		ヒレ(船便)	1,050中心	→
	米国産	山付ベリー	1,230中心	→
		ボックス	840中心	→
		テンダーロイン	1,100中心	→
		ベリー	1,150中心	→

## 【関東の国産豚肉現物相場】C、Fともにスソ物に引き合い

2月に入り、不需要期であるものの、枝肉相場は前週から一段高の展開となっている。輸入物の入船遅れなどの影響は落ち着いているものの、国内では豚熱など疾病の発生も続いており、さらに寒波の影響で北海道や日本海側の地域を中心に、肉豚の出荷の遅れや物流が混乱する可能性もある。引き続きウデやモモなどスソ物の荷動きは堅調。一方、バラやカタロースは一時期に比べて落ち着いているが、引き合い自体はみられる。

フローズンは依然として積極的に凍結回しにで

きる環境とはなっておらず、在庫水準は比較的低水準となっており、需給は締まった状況となっている。一方、全体的に荷動き自体は堅調であり、チルド同様スソ物を中心にバラなどにも引き合いがみられる。

【関東の国産豚肉カット肉相場】

円/キロ

生鮮物		冷凍物	
部位	相場	部位	相場
カタロース	1,000~1,080	カタロース	880~930
ウデ	700~750	ウデ	650~700
ロース	980~1,050	ロース	880~930
バラ	1,000~1,080	バラ	960~1,000
モモ	720~760	モモ	670~720
ヒレ	980~1,050	ヒレ	880~930

### 畜産物卸売価格の推移

(令和7年1月)  
単位：頭数(頭)、価格(円/kg)

	豚肉 極上・上					牛肉			全国と畜 頭数		鶏卵 東京	鶏肉 東京	
	東京		大阪		加重 平均 価格	東京(加重平均価格)			豚	成牛	(M)	もも	むね
	価格	頭数	価格	頭数		和牛 去勢 A4	交雑 去勢 B3	乳用種 去勢 B2					
5年12月	553	7,445	536	1,060	551	2,416	1,642	795	1,461,938	97,453	247	711	393
6年1月	493	5,857	486	627	492	2,315	1,515	866	1,414,172	85,166	180	729	396
上旬	500	1,205	508	119	501	2,432	1,557	-	60,600	2,664	180	736	398
中旬	491	2,301	484	197	490	2,359	1,529	874	54,933	3,630	180	733	397
下旬	492	2,351	479	311	491	2,243	1,491	817	68,413	4,230	180	722	394
6年12月	638	7,155	536	941	626	2,463	1,644	1,217	1,464,169	100,316	290	746	419
7年1月	598	5,980	520	410	593	2,234	1,523	1,072	1,413,900	84,020	258	770	422
上旬	629	1,827	555	128	624	2,293	1,560	1,130	58,757	3,463	225	763	421
中旬	551	1,594	502	127	548	2,237	1,565	1,006	49,163	2,979	241	773	426
下旬	606	2,559	506	155	600	2,204	1,488	1,076	67,700	3,994	285	771	420
1日(水)													
2日(木)													
3日(金)													
4日(土)									36,200	710			
5日(日)									18,900	540			
6日(月)	636	427	-	-	636	-	-	-	71,100	4,790	225	768	424
7日(火)	643	346	554	92	624	2,335	1,586	-	71,700	4,750	225	771	428
8日(水)	706	280	601	4	705	2,260	1,557	1,125	72,100	4,610	225	-	-
9日(木)	633	392	590	9	632	2,289	1,551	1,134	72,000	4,350	225	754	412
10日(金)	546	382	539	23	546	2,304	1,562	-	69,300	4,490	225	759	420
11日(土)									6,400	670		775	429
12日(日)													
13日(月)									21,900	530			
14日(火)	517	290	552	28	520	2,164	1,544	-	76,600	4,950	225	768	423
15日(水)	574	285	494	21	569	2,230	1,577	1,040	72,500	4,670	240	-	-
16日(木)	553	362	588	5	553	2,234	1,583	-	73,100	3,900	240	768	423
17日(金)	573	348	471	43	562	2,283	1,530	944	70,400	4,270	250	773	428
18日(土)									3,400	100		778	429
19日(日)													
20日(月)	537	309	492	30	533	2,232	1,566	-	69,000	4,740	250	775	424
21日(火)	565	292	506	32	559	2,219	1,543	-	70,200	4,550	260	771	424
22日(水)	577	239	458	26	565	2,228	1,520	-	67,600	4,350	260	-	-
23日(木)	586	340	455	20	579	2,165	1,452	-	70,700	3,870	275	769	421
24日(金)	629	280	527	25	621	2,188	1,499	1,087	66,600	3,870	285	768	418
25日(土)												774	422
26日(日)													
27日(月)	624	342	556	20	620	2,201	1,481	-	65,800	4,190	285	773	418
28日(火)	646	263	-	-	646	2,201	1,497	-	70,200	3,950	295	776	422
29日(水)	611	180	505	21	600	2,192	1,427	1,150	67,200	4,140	295	-	-
30日(木)	594	318	584	2	594	2,203	1,456	-	67,300	3,330	305	771	419
31日(金)	622	305	574	9	621	2,244	1,518	1,020	63,700	3,700	305	766	412

注1) 当月の価格及び頭数は速報値  
 注2) 牛肉の価格は、生体及び搬入の加重平均(全て瑕疵含む)  
 注3) 「-」は取引無し

# 東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数

[東京食肉卸売市場] 2月5日  
枝肉卸売価格(瑕疵除く)(頭、1kg当たり円、税込み)

◇牛生体		5	4	3	2	1	
和牛	雌 A	高値	3,244	2,550	-	-	-
		安値	2,230	2,052	-	-	-
		平均	2,607	2,331	-	-	-
	107頭	頭数	85	22	-	-	-
	雌 B	高値	-	-	-	-	-
		安値	-	-	-	-	-
		平均	-	-	-	-	-
	-頭	頭数	-	-	-	-	-
	去 A	高値	3,406	2,455	2,214	-	-
		安値	2,255	2,214	2,027	-	-
		平均	2,633	2,315	2,137	-	-
	164頭	頭数	127	31	6	-	-
去 B	高値	-	-	-	-	-	
	安値	-	-	-	-	-	
	平均	-	2,053	1,788	-	-	
2頭	頭数	-	1	1	-	-	
乳牛	雌 B -頭	平均	-	-	-	-	
	雌 C -頭	平均	-	-	-	-	
	去 B -頭	平均	-	-	-	-	
	去 C -頭	平均	-	-	-	-	
交雑牛	雌 B	平均	1,864	1,646	1,497	1,354	-
		18頭	頭数	1	5	7	5
	雌 C	平均	-	-	-	-	-
		-頭	頭数	-	-	-	-
	去 B	平均	1,834	1,712	1,547	1,455	-
		12頭	頭数	1	4	4	3
去 C	平均	-	-	1,517	-	-	
1頭	頭数	-	-	1	-	-	

	牛	豚	搬入牛	搬入豚		その他
と畜 売買	401 396	955 904	- 210.0	(競り)	(相対)	
				-	-	73

◇牛搬入		5	4	3	2	1
和 雌	A	2,414	2,003	1,539	1,340	-
	B	-	-	1,503	1,328	-
和 去	A	2,451	2,272	2,069	-	-
	B	-	-	-	-	-
乳 雌	B	-	-	-	-	-
	C	-	-	-	866	816
乳 去	B	-	-	-	-	-
	C	-	-	-	-	-
交 雌	B	1,885	1,624	1,488	1,353	-
	C	-	-	1,424	1,210	-
交 去	B	-	1,736	1,536	1,399	996
	C	-	1,523	1,436	-	-

◇豚		[極上]	[上]	[中]	[並]	[等外]
生体	高値	703	783	663	619	564
	安値	633	604	568	454	274
	平均	674	623	602	562	465
	頭数	( 6)	( 291)	( 303)	( 212)	( 92)
搬入 競り	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	平均	-	-	-	-	-
	頭数	( -)	( -)	( -)	( -)	( -)
搬入 相対	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	平均	-	-	-	-	-
	頭数	( -)	( -)	( -)	( -)	( -)

[大阪食肉卸売市場] 2月5日  
枝肉卸売価格(生体)(1kg当たり円、税込み) [ ] は豚規格

	5[極上]	4 [上]	3 [中]	2 [並]	1 [等外]
和 雌 A	2,333	-	-	-	-
(頭数)	( 2)	( 1)	( -)	( -)	( -)
B	-	-	-	-	-
(頭数)	( -)	( -)	( -)	( -)	( -)
和 去 A	2,537	-	-	-	-
(頭数)	( 2)	( -)	( -)	( -)	( -)
B	-	-	-	-	-
(頭数)	( -)	( -)	( -)	( -)	( -)
乳 去 B	-	-	-	-	-
交雑雌 B	-	1,721	1,636	1,599	-
C	-	-	1,544	1,513	-
交雑去 B	1,902	1,751	1,672	-	-
C	-	1,718	1,639	1,609	-
豚	-	567	540	421	487

[全国と畜概算頭数]  
農水省統計部発表 (頭)

	2月5日	2月4日	(2月累計)
豚	63,800	70,000	200,900
成牛計	4,600	4,530	13,840
和牛雌	1,200	1,090	3,210
和牛去勢	1,130	1,300	3,900
乳牛雌	640	780	1,930
乳牛去勢	630	550	1,750
交雑雌	510	380	1,410
交雑去	490	430	1,640

[去勢牛B3・2規格 枝肉取引価格] 2月5日

	1,487円	(前日 1,478円)
東京		
	1,665円	(前日 1,672円)
大阪		

[豚・全農建値] 2月5日

上	中	取引頭数	市況
629円	601円	1,192頭	弱もちあい

と畜 売買	牛 109頭 牛 61頭	豚 175頭 豚 98頭	牛概況 豚概況	軟調 もちあい
----------	-----------------	-----------------	------------	------------

# 各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場

[主要市場豚枝肉卸売価格] 2月5日 (1kg当たり円、税込み)

	上加重 (前日)	中加重 (前日)	と畜	上場	市況
北海道 [セ]	605 (594)	- (-)	5,739	-	上伸
仙台 [中]	556 (565)	493 (544)	542	84	反落
宇都宮 [地]	670 (-)	593 (-)	1,689	84	小幅高
茨城 [地]	633 (620)	602 (601)	1,331	633	続伸
群馬 [地]	665 (679)	528 (579)	2,236	367	反落
さいたま [中]	626 (652)	593 (638)	301	304	反落
東京 [中]	623 (631)	602 (600)	955	904	反落
横浜 [中]	640 (620)	609 (596)	646	647	上伸
山梨 [地]	617 (652)	613 (632)	162	122	反落
浜松 [地]	568 (568)	534 (535)	313	34	もちあい
名古屋 [中]	570 (559)	547 (544)	903	140	続伸
京都 [中]	- (606)	- (577)	-	-	休市
大阪 [中]	567 (587)	540 (502)	175	86	軟調
神戸 [中]	- (649)	- (683)	122	-	上場なし
岡山 [地]	655 (681)	630 (626)	249	269	強気配
広島 [中]	600 (-)	557 (-)	119	70	急騰
福岡 [中]	592 (612)	558 (574)	462	157	反落

注：北海道はホクレン大卸売価格で、前日の全道と畜頭数。

[日本食肉流通センター] 1月29日~2月4日  
豚カット肉 [I] (1kg当たり円、税込み、重量kg)

◇首都圏 総重量 1,486,830 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,164	1,281	1,292	1,247	73,569
うで	713	788	819	783	110,765
ロース	1,079	1,173	1,216	1,161	127,482
ばら	1,148	1,238	1,272	1,216	143,500
もも	742	779	802	769	174,086
ヒレ	1,040	1,102	1,231	1,129	8,785
セット	893	980	1,058	985	848,643

◇近畿圏 総重量 800,963 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,175	1,253	1,320	1,265	62,143
うで	696	720	745	719	135,697
ロース	1,053	1,171	1,218	1,146	111,955
ばら	1,191	1,225	1,247	1,225	144,280
もも	702	724	761	728	177,391
ヒレ	1,103	1,188	1,247	1,177	11,400
セット	893	972	1,074	974	158,097

[食鳥正肉日経相場] 2月4日  
荷受売値平均値 (kg当たり円、税抜き)

◇東京 (7社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	706	742	862	154
ムネ	364	398	503	149

◇大阪 (3社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	723	774	1,030	9
ムネ	371	435	590	9

[農水省統計情報部食鳥市況] 2月4日  
kg当たり円、税抜き

	モモ肉	ムネ肉	手羽モ	手羽サ	ササミ
高値					
安値					
平均					

4日分は7日掲載

※日本食肉流通センター：①数値はすべて記載日中間（1週間分）に収集した累積データをもとに算定しており、直近1週間の状況を示している。②重量ベースでみた価格の分布。代表値は「重量中央値」であり、参考値として「第1四分位値」「第3四分位値」「刈込み平均値」を算定。③収集した取引価格データ（単価・重量）を単価の低いものから順に並べ替えた上で取引重量を累積し、総取引重量のちょうど50%に位置する単価を「重量中央値」。最低価格から順に累積したデータを4等分し、最初の境界に位置する単価を「第1四分位値」3番目の境界に位置する単価を「第3四分位値」という。「刈込み平均値」は、第1四分位と第3四分位の間の重量ベースの平均値（加重平均値）。

食肉業界紙のパイオニア

# 食肉通信の 専門紙・誌と本

食肉業界のあらゆる情報を迅速・正確に伝えるべく、日刊、週刊、月刊の3紙を定期発行。食肉関連の情報を網羅した週刊「食肉通信」、日々のニュース速報に特化した日刊「食肉速報」、市場分析などテーマ性の高い情報を詳細に掘り下げる月刊「ミート・ジャーナル」を基幹媒体として、食肉に関する専門書籍を多数発行しております。

### ■業界動向がデータでわかる 数字でみる食肉産業

生産から流通、販売まで関連分野のデータを集積。B5判。年1回発行。

B5判 472頁 4,191円(送料別)

### ■畜産・食肉業界の動向大全 日本食肉年鑑

現状分析と将来の展望、戦略構築に必携の一冊。関係名簿、畜産・食肉需給の動向、食肉流通の動向、食肉加工品関係の売れ筋動向なども収録。年1回発行。

B5判 470頁 14,850円(送料別)

### ◆食肉販売&経営関連

## 銘柄牛肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄牛肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴など最新データを満載。

B5判 240頁 定価2,200円(送料別)

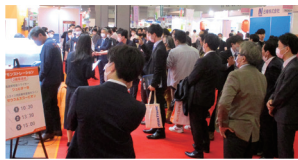
## 銘柄豚肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄豚肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴、輸出の状況など最新データを満載。

B5判 240頁 定価2,200円(送料別)

### ◆イベント

#### ■国内で唯一、 最大級の食肉総合見本市



## 食肉産業展

食のグローバル化が目覚ましい発展を遂げる中で、和牛に象徴される日本独自の食文化を守り今後の成長を促すため、多彩な素材食品、加工技術、販売手法、管理システムを一堂に集めて提案いたします。

(HP) <https://www.shokuniku-sangyoten.jp/>

## 週刊 食肉通信



食肉全般の行政、業界ニュースをはじめ、新製品や食肉店経営のページ、量販店・外食、食肉組合、食肉市場などのニュースのほか、週間・月間市況や全国の食肉市場の牛・豚肉相場、食鳥相場など、国内外の生産から商社、卸、小売まで広範な情報を掲載しています。わが国唯一の食肉専門紙。

発行は毎週火曜日、ブランクett判8~12ページ、価格は年間25,000円(税・送料込)

## 日刊 食肉速報



食肉関連に関する行政、業界の動向をはじめ、国産(牛枝肉・部分肉、豚枝肉・部分肉、プロイラー)と輸入(米国産やカナダ産の牛肉・豚肉、豪州産牛肉など)の相場市況を毎日掲載するとともに、企業情報・企業倒産など日々の業界ニュースをお届けします。

発行は月曜日から金曜日、B5判14ページ、価格は年間82,080円(税・送料込) ※軽減税率対象

## 月刊 ミート・ジャーナル



食肉の流通チャネルが多様化する中で、その時々のもっとも話題性の高いテーマを多角的視野で捉え、現場をレポート・分析。あわせて食肉・食肉製品など総業の製造・流通・販売の現場ですぐに役立つ技術情報などを掲載する月刊専門誌。

発行は毎月月上旬、B5判120~150頁、価格は年間23,100円(税・送料込)

### ◆教材&レポート等

#### ■あなたの常識を強固にする 今さら聞けない肉の常識

平野正男 著  
鏡 晃 監

肉はなぜ赤いのか、しゃぶしゃぶがおいしい理由は?など66の常識をわかりやすく解説。

A5判 152頁 定価1,500円(送料別)

#### ■知識を豊かにする

### 食肉用語事典〈新改訂版〉

日本食肉研究会編 A5判 506頁 定価7,000円(送料別)

#### ■~食肉のプロフェッショナルを育てる~シリーズ

### 牛枝肉・牛部分肉の見方 牛肉の見方を簡単図解

牛枝肉・牛部分肉について、各方面のプロに幅広く取材し、「牛枝肉、牛部分肉のポイント」について分かりやすくまとめた待望の入門書。

B5判 90頁 定価3,000円(送料別)

### ◆ステーションナリー

## 食肉手帳 DIARY

毎年発行し好評をいただいている業界人必携の手帳がグレードアップ。機能性、食肉価格などの資料も充実し、日頃の業務をサポートします。名入れも可。

横9.4cm×縦14.5cm 定価990円 ※購入される冊数によって価格は変動します

お申し込みは電話かFAXで  
お近くの食肉通信社まで

# 株式会社 食肉通信社

■大阪 〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48

TEL 06(6538)5505 FAX 06(6538)5510

■東京 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町18-1

TEL 03(3663)2011 FAX 03(3663)2015

■九州 〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12

TEL 092(271)7816 FAX 092(291)2995